

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

○施策の目標の達成度を測る指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	公開	○	○	%	59.0%	57.8%	57.1%	49.8%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
○基礎的な状況を継続的に観測する指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標2	志願者総数	公開	○	○	人	5,916	7,647	7,949	7,979	
指標3	志願者倍率	公開	○	○	倍	9.1	11.8	12.2	12.3	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	公開	○		%					近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による
<small>注) 全学的な視点、個別的な視点について 全学的な視点とは入試部の進捗状況報告シートに表示される項目 個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目</small>										

【5.0.1 入学者受け入れ方針】

AO入試について見直しを行った(詳細は「評価項目5.0.5」を参照)。入試種類ごとに入学者の成績等の追跡調査を継続して実施し、指定校推薦入試の指定校の選定や、AO入試の見直しなど、入試制度の検討に利用している。また一般入試では、'08年度より初めて関学独自入試を実施し、英語や数学を得意とする受験生を集めた。なお入学者に占める一般入試(大学入試センター試験を含む)の割合は、'05年度は59%、'06年度は58%、'07年度は57%と当初の目標(6対4)を達成していたが、'08年度には商学部としては初めて50%を割り込み、49.8%となった。'08年度より関学独自入試が新規に導入され、一般入試受験者数は微増となったが、前年度よりも合格者数を大幅に絞り込んだ結果(F方式では'07年度の実質倍率4.4倍が'08年度には5.4倍に、A方式では'07年度の実質倍率5.3倍が'08年度には6.5倍に上昇)、一般入試入学者数の減少に至った。また、2008年度から協定校が増加したことにより、商学部を志願する生徒が増え、入学者増につながったのも、一般入試入学者数比率の大幅低下をもたらした原因と言える。今後、一般入試入学者数比率の目標値を50%として入学者受け入れを検討すべき段階に来ている。

【5.0.2 学生募集方法、入学者選抜方法】

'08年度より関学独自入試を実施し、一般入試制度でも得意な能力を持つ学生を集めるよう努力している。AO入試については見直しを行った(詳細は「評価項目5.0.5」を参照)。協定校については'09年度より最大枠人数を文系学部へのみ適用することとなり、商学部への志願者の微増が見込まれる。また指定校については、今年も入試検討委員会からの成案を受けて、新規に6校、復活対象に1校を選んだ。

【5.0.5 アドミッションズ・オフィス入試】

'04年度から導入されたAO入試については、すでに'06年度入試について募集カテゴリーの見直しを行なっている。さらに、'08年度入試では、募集カテゴリー、募集定員、試験方法などの見直しが図られ、次のカテゴリーと定員で募集が行われた。①文化・芸術で高い評価を得た者 5名、②能力、技術で高度な資格や水準を有し、高い評価を得た者 15名、③社会人 若干名、④事業経営を志向する者 5名、⑤論文によって自己表現し、読解力・構成力・説得力を示すことができる者 5名。'09年度AO入試についても引き続き検討し、改正され従来よりも学力を担保とした学生を求めることとなった。そのことをスローガンに表現すべく、「創造的、積極的な学習姿勢を持つ人。真に創造的な能力を有するビジネスパーソン。」と改められた。出願資格と定員枠については'08年度AO入試と実質的に同様である。①文化、芸術で高い評価を得た者。5名、②能力、技術で高度な資格や水準を有し、高い評価を得た者。15名。③事業経営を志向する者。5名、④論文によって自己表現し、読解力、構成力、説得力を示すことができる者。5名。⑤社会人。若干名。変更点は、入試実施方法にある。第1次試験で、上記①、②、③、⑤のカテゴリー受験者に書類審査に加えて小論文(I)100点満点、60分、上記④においては、小論文(I)100点満点、60分、小論文(II)100点満点、90分が課される。'08年度AO入試において論文試験を第2次で課していたが、'09年度AO入試より第1次試験で必須となる。AO入試においても、多様な学生を集めるだけでなく、応募者の学力を重視する方向性を打ち出すこととなった。最後に、スポーツ選抜入試に関しては、2009年度より商学部が独自に合格者を発表するのではなく、入試課が全学的に応募から一次合格まで一貫して担うこととなっている。

【5.0.7 入学者選抜における高・大の連携】

高大連携生受け入れは'05年度からスタートし、'08年度も引き続き実施するとともに、学生受け入れのさらなる拡大・充実を目指す。その中に含まれるものは次のとおりである。①高等部での授業開講、②高校の生徒の授業聴講、③高校での出張模擬講義、④高大連携生受け入れ、⑤学部執行部の教職員による指定校等の訪問。指定校を訪問した際などには高校側から入試に関する細かい問い合わせが多数あり、有意義な情報伝達・意見交換の場となっている。'07年度には執行部が中心となって11高校を訪問したが、'08年度にも執行部が中国四国地方と兵庫県の新規指定校と進学実績を有する高校を14校ほどリストアップし訪問する。これらの連携プログラムはそれぞれに成果をあげていると考える。

【5.0.8 社会人学生の受け入れ】

'08年度AO入試の社会人カテゴリーで1名の受験者があり、社会人1名が合格し、08年4月より在籍している。

【5.0.9 科目等履修生、聴講生等】

聴講・科目等履修生の受け入れ数は、'04年度8名、'05年度8名、'06年度5名、および'07年度9名であった。'08年度も昨年度までと同じカテゴリー内で比較すれば、同数に近い。しかしながら'08年度より、関学大と兵庫医科大との提携を経て、兵庫医科大学が関学大で科目を履修し、単位取得を認められるようになったため、兵庫医科大学より商学部に8名の学生が科目等履修生となっている。春学期に8名とも数学基礎B(線形代数)を履修している。

なお、'08年度は本学法学部が受け入れ担当の責任学部となっているため、8名とも法学部に学籍を置く形となっている。秋学期にも商学部開講科目の履修が予想される。こうして今後は履修生が増えるであろうから、制度としての重要性は増すと期待される。

【5.0.10 外国人留学生の受け入れ】

若干名の募集に対して'06年度は受験者数19名、入学者数5名、'07年度は受験者17名、入学者6名であった。'08年度には志願者数33名のうち9名が合格し、6名が入学している。なお'07年度の在籍者数30名と比べれば、'08年の外国人留学生の総数は減っているが、募集枠が若干名となっていることを考えれば、問題はない。外国人留学生のうち中国からの留学生が圧倒的多数を誇るが、日本語能力を重視すれば必然的結果といえよう。とはいえ、インドネシアからの留学生が成績優秀により商学部奨励金を授与されるなど、人数は少ないながらも国籍にかかわらず優れた留学生がいるのは、外国人留学生入試である程度倍率を高く維持できている賜物かもしれない。新年度初めの学部執行部教職員と外国人留学生(新入生および在籍生)との昼食を取りながらの懇談会は継続して実施している。また、学部スタッフによる履修指導等のサポートも継続して実施している。これらの取り組みは、外国人留学生の学生生活支援および学習支援として有効に機能していると考えられる。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

本学で独自に実施する英語および数学の試験結果に、センター入試のうち本学部の指定する科目の成績を合算して判定する「関学独自入試」を行い、いずれかの科目を得意とする受験生を集めた。

実施初年度から独自入試の合格者数を絞り込んだ理由としては、国公立大学の合格レベルにありながら関学大への入学を強く志願する学生の中から優秀な学生を得ることに目標を置いたためである。実際に、予備校の偏差値調査でも、関学独自入試方式が一番偏差値が高く、入試における初期の目標を達成できたと思われる。

学内第三者評価

入学者の受け入れについては、前回の意見を受けて詳細な検討がなされていると認められる。一般入試の合格者数を絞り込んだことについては学生のレベルの向上につながる可能性もあり、結果について詳細に検討することが期待される。入学試験制度については入学後の成績との関連などを調査するなどさらなる検討が期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
関学独自入試の導入と合格者数の絞り込み、特色ある学生（英語、数学が得意？）の獲得などとの関係が不明なので、記述をお願いしたい。